



## 映画「光を浴びる村」と 薩郷村国保診療所

みなさんは昔、常陸大宮市域のある地域を舞台に、映画が製作されたことをご存じでしょうか。昭和28年（1953）、薩郷村を舞台に、茨城県公聴課により製作された「光を浴びる村」です。この映画では薩郷村を生活改善モデル村として取り上げ、その生活改善の内、無医村だったこの村に村営診療所（薩郷村国民健康保険診療所）が建設されたことにスポットを当て、その過程をストーリー形式で紹介しています。



▲薩郷村国民健康保険診療所  
（『広報みわ第52号』（昭和47年10月1日発行）より転載）

### 映画のあらすじ

この映画では久子という女性を主人公にストーリーが展開されます。久子の父は村会議長で村営診療所の建設に反対していましたが、ある日、病気で倒れ、村営診療所を建設すべきだと考えを改めます。父が病に倒れた場面では、久子が隣村に医者を呼ぶため、長い距離自転車走らせるシーンがあり、この村が無医村で不便だったことを伝えています。その後、久子は父が考えを改めたことを村長に伝え、村会一致で診療所建設が可決され、村民達が協力して診療所を建築し、開設されます。そして最後、無医村だったこの村に診療所ができたことで、村民たちが文化の光を浴び、幸福な毎日を送っているという内容のナレーションで結び、映画

が終わります。以上がこの映画のあらすじです。

実際に映画のように村会議長が診療所の建設に反対していたのかは不明ですが、昭和26年（1951）11月25日付『茨城新聞』の診療所新設決定を伝える記事を見ると、「一般のすう勢が国民健康保険反対の折にもかかわらず」村会で診療所の新設が決定されたと書かれており、反対意見もあったのではないかと考えられます。

### 診療所の変遷

薩郷村国民健康保険診療所は映画が製作される2年前、昭和26年（1951）、大字高部に開設されました。この診療所は県道29号と緒川が交わる高部橋の少し手前、鷲子方面から来た場合、道路から見て右側の敷地にあったようです。現在この場所は空き地で、駐車場として利用されており、その敷地の前には茨城交通のバス停「中央保育園前」が立っています。

昭和31年（1956）、薩郷村と檜沢村が合併し、美和村となり、その翌年には旧檜沢村地域にも村営診療所が建設されます。そして昭和50年（1975）、薩郷と檜沢の診療所が統合され、美和村国民健康保険診療所が新設されます。その診療所があった場所には現在、高部駐在所と消防団の建物があります。

その後、この診療所は平成16年（2004）の常陸大宮市合併に伴い、常陸大宮市国民健康保険美和診療所と改称され、平成23年（2011）には、老朽化により美和支所横の現在地に移転、改築されました。このように映画に取り上げられた診療所は、場所と名前を変えながらも現在も地元住民の健康生活を見守っています。

### おわりに

今回紹介した映画「光を浴びる村」は茨城県が動画共有サイトYouTube内で「なつかし・いばらき」というチャンネル名で動画を公開しています。この映画は当時の人々の暮らしや村の景色を記録した貴重な映像で、17分40秒と手軽に見られる長さですので、興味を持たれた方はぜひ検索してご覧下さい。

### 〈主な参考文献〉

美和村史編さん室編『美和村史』（1993）、美和村史編さん室編『美和村史料 新聞記事』（2002）、美和村『広報みわ 復刻版Ⅰ』※縮刷版（1986）